

ものづくりフェスタ

6月7日～8日 於 川崎

(有)飛永製作所 飛永敏博

「未来の大人たちへ、昔の子供たちへ…」というテーマで開催されたこのイベントには、当日500名の来場者があったそうですね。「ものづくり」を楽しみに来られた親子が多かった様に思います。中村先生もミサガ織りとホットボンド工作のブースを出展され黄色いTシャツ姿で子供達と、ものづくりを楽しんでいらっしゃいましたね。機青連の幹事も「もの国」さんのブースでアルミ製の「ロボ丸」を買って組み立てをしていました。今、金メッキでお色直しをしてもらっています。ものづくり共和国の皆様、1年がかりでのイベント構想から、当日の企画、運営と本当にお疲れ様でした。また、機青連へのお声かけを頂きありがとうございました。

ものづくりフェスタの翌日、6月8日(日)機青連 中村顧問と早稲田大学商学部 鶴飼教授のコーディネートのもと「ものづくりが好きだけで、街工場は生き残れるのか」というテーマで

・中国への仕事のシフト

->少人数の中小零細企業が中国進出を考える時の問題点

・インターネットを使った加工部品の発注体制への変化

->取引に必要な「信用」をどのように伝えるか。

・他社には真似のできない加工技術

->図面化、データ化できない独自のノウハウがあるか？

など、いくつかの事例が紹介されました。これを受けて、各団体の代表者からそれぞれの団体の一年間の動きと今後の活動方針が披露されました。東代表幹事からは機青連の理念である「育とう、育てよう、育ちあおう」のもと、これからの中小企業にとっては企業間の連携と人を育てることが大切であり、会員企業が今の時代にあった企業に変化できることを考えていると発表されました。また、京都の発展と活性化のために、青年15団体が協力し京都青年団体会議を開催することも合わせて発表されました。来年度は名古屋にて「第3回ものづくり元気サミット」が開催されることが決定しています。今年、参加できなかった方も来年度はご参加頂き、全国のものづくりに関わる方々と交流をされてはいかがでしょうか？

